

編集室

近頃はやりのねつ造問題について

小保方さんがねつ造疑惑で窮地にたたさされています。実験をしたことが一度でもあれば、あの「写真のとりがえ」が単純ミスではありえないことはすぐにわかります。「STAP細胞は、ありますう！」というあの会見は信じてあげたいところですが、その筋の見方によると、小保方さん、すでにアウト!のようです。理研の上司の方々、小保方さんほどテレビ映えないけど、データの信頼性に対するモラルは大変高いのです(私自身が理研の先生に叱られたことあり)。世間が心配するような腐敗はないと思います。

しかし昨今、Nature誌をはじめ一流紙に再現のできないデータがたくさんでているのはもはや常識で「ねつ造」がサイエンスの根幹を揺るがす大問題化しているのも事実。Nature論文1本で人生が変わってしまうことが異常な状況を作り出しており、そこには近年経済成長著しい中国のサイエンス参入が一枚かんでいるとは、よくいわれています。例えば、かの国にはねつ造どころかNature誌のFirst authorを密売するビジネスがあるそうで、単にねつ造するとかしないとかのレベルをワンランク超えている!偽札が出回っても平気で流通させているとか、贋作やコピー商品を公然と作るとか、中国の常識はわれわれの感覚では度し難い。しかし、これは中国のレベルが低いとって片付ける問題ではないのかもしれませんが、文化が根本的に違うんじゃないか。サイエンスや知的所有権といった文明の基本は、元をたどればキリスト教文化から出てくる概念で、世界で唯一の普遍的価値観ではないらしい。今後、非西欧勢力が多数になると世界は混迷をさらに深めるのかも。

さて、ねつ造というかデータの改ざん、というの、われわれ一般の臨床医にとっても身近な問題です。臨床研究をすれば、「このデータ1つ、ちょっと上にすれていてくれれば $p < 0.05$ になるのに。」とかいう場面にならずに会います。私、米国のHarvardのあるラボに臨床研究を見学しに行ったことがあるのですが、あそこの方々は、データの解析にあたりおもいっきり症例を「除外」していきます。そうすると、つかみ所のないデータがいつの間にかきれいに整理されてくる。はじめはインチキだ!と思っていましたが、一貫した(あくまで一貫した)ルールで症例を限定することは、一応、インチキではないのですね。考えてみれば人のデータ

は多様性が大きいので、 n が小さい場合、ある程度条件をそろえないときれいなデータにならないのは当たり前で、少ない n で $p < 0.05$ が出たものを「有意」=「正しい」とすること(かつての自分)が結局はいかに不毛であったか。多様性を打ち消すためにできる最も一般的な方法が n を十分に増やすことで、だから大規模臨床試験が大事。小規模な臨床研究とは、真実を検証するためにあるのではなく、ある切り口を提示するものであるという見方もあります。

ノバルティスの論文データ改ざん問題、「ディオバンは他のARBと異なり心血管イベントを減らす効果がある」というこのデータ、はじめて聞いたときから「ホンマかいな!」と思っていました。おそらく、多くの循環器の先生方もそう感じていたと思います。このような立派な大規模研究において、製薬会社の望みどおりの結果が出るのはなぜか。社員の不正が取り沙汰されていますが、それより、もともとバイアスのかかった結果が出やすい研究デザインになっていること(おそらく意図的に)が問題とされます。つまり研究参加者、この場合実際に外来で患者さんを診ている主治医がディオバンに有利な審判を出しやすいデザインになっているということですね。サッカーのアウェイ審判と同じです。ジャーナルもその欠陥を見逃し論文を通してしまったことも問題です。大学側もなぜ製薬会社の便宜をはかるのか。医学研究にかかる費用が、製薬会社からの寄付金なしには十分確保できないという状況があるのでしょう。ノバルティスの件でも大学はかなりの額を研究費として受け取っていました。しかしこの金は教授の懐に入るのではなく、実際研究費に当てられているはず。よい研究には金がかかる。研究費用は多ければ多い程よい。それならば国が十分な研究費を手当てすべきではなからうかとも思います。日本の国力増強のために。日本全体の科学研究費の総額は原爆被爆者が使う医療費とほぼ同額だとか。もっと、多くてもいいような気がします。

というわけで、当面の結論は新発見やセンセーショナルなデータをやすやすと信じてはいけない!ということでしょうか。サイエンスの真実は、関わる人々の願望によって歪められているということのようです。

(小園 亮次)

広島県医師会速報 2014年(平成26年)5月15日

- 発行所/一般社団法人 広島県医師会 〒733-8540 広島市西区観音本町一丁目1番1号 TEL 082-232-7211 FAX 082-293-3363
広島県医師会HP <http://www.hiroshima.med.or.jp/> E-mail: kouhou@hiroshima.med.or.jp
- 編集者/広島県医師会会長 平松 恵一
(広報委員) 生田 隆徳、豊田 神敬、小園 亮次、佐々木 龍司、豊田 章宏、中尾 三和子、奈良井 章人
林谷 道子、檜山 桂子、茗荷 浩志、吉田 良順、小笠原 英敬、水野 正晴、岩崎 泰政
- 印刷所/レタープレス株式会社 〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809番地の5 TEL 082-844-7500 FAX 082-844-7800